

1. フローディストリビューターの修理方法

BX・XM・Xantiaのフローディストリビューターの修理方法は同一です。
異なるのは、フローディストリビューターの流量（ジェットとスプリング）と最高（制限）圧力です。

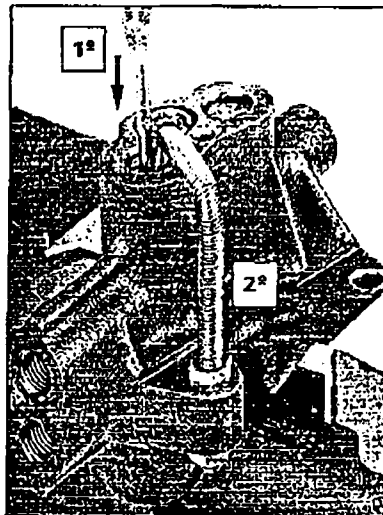
最高（制限）圧力

- BX = $140 \pm \frac{5}{10}$ bar
- XM = $160 \pm \frac{5}{10}$ bar
- Xantia = $160 \pm \frac{5}{10}$ bar

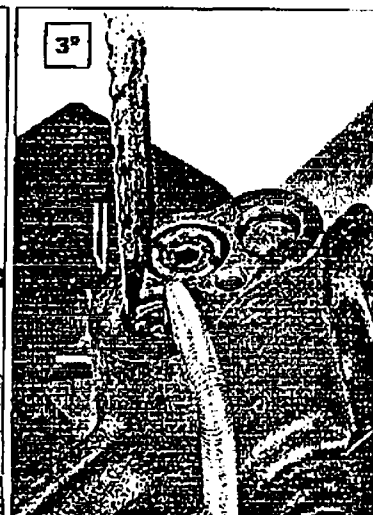
分解

オリフィスを塞ぎ、本体、特にプラグの部分をよく清掃する。

プラグの取外し：図1、2及び3



92-253

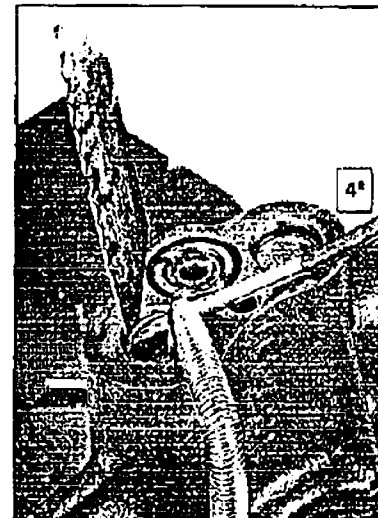


92-254

2

- 製作工具、アーム(A)をアスピに取り付ける。
- ドライバーでプラグを一杯に押し込み、アーム(A)でその位置に固定する。
- 製作工具、鋸歯(B)をリミッターの溝の方に置き、スナップリングと本体の間に滑り込ませる。
小さいドライバーを使ってスナップリングを持ち上げる。
- アーム(A)を外して、プラグを取出す。

- スプリングの位置を正確に記録して置くこと



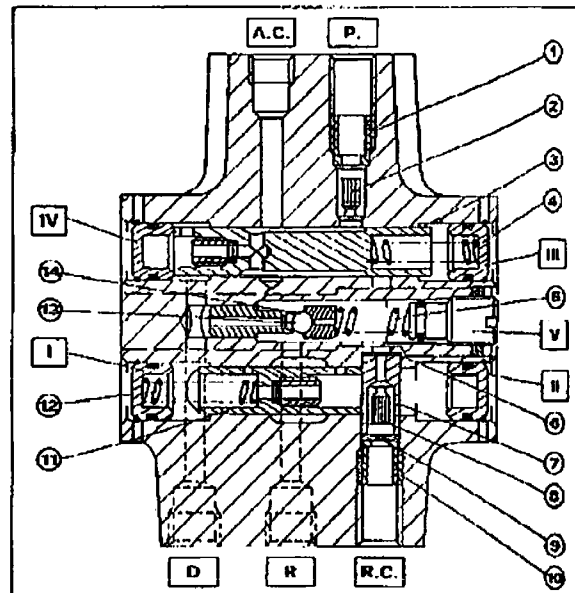
92-255

3

順序に従い部品を取外す。

取外し：

- プラグ①：プラグ面にウエス等をあて、オリフィスD（ステアリング45mmφ）から圧縮空気を吹き込む。
- スプリング⑫
- コントロールスライドバルブ⑪



オリフィス-R.C. (リターン接続) 側から次の部品を取り外す。

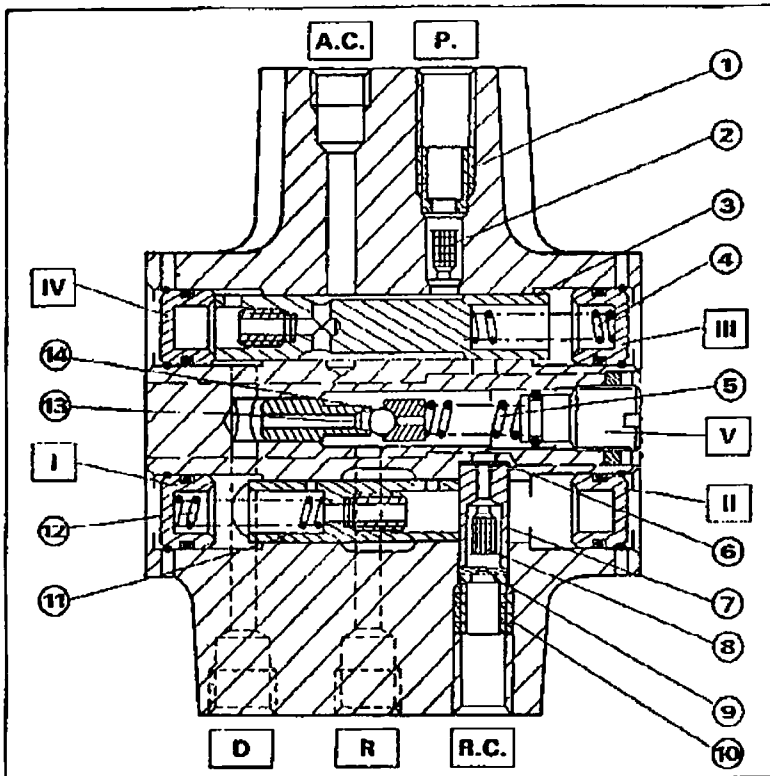
- ネジ付きスリーブ⑩
- ノズル⑨
- フィルター⑧付きストッパー⑦
- ノズル⑥

プラグIIを取外す。：オリフィスI側から、ドライバー等で押出す。

- プラグIII：反対側のプラグIVが外れないように支えておく。
- スプリング④
- デストリビューションスライドバルブ③

プラグIVを外す。

オリフィスP (ポンプ) を外す。

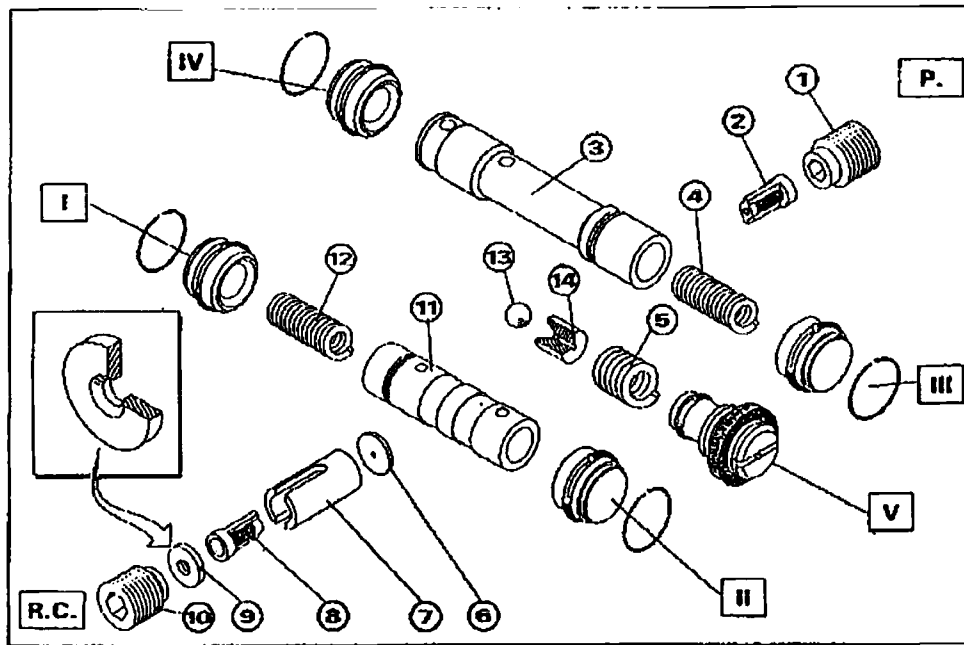


Y 44-5a

- ネジ付きスリーブ①
- フィルター②

リングを緩めて、コントロールスクリューVを外す。

- スプリング⑤
- スパーサー⑭
- ボール⑬



Y 44-017

洗浄：

ノズルとスライドバルブを外した部品を洗浄し、エアーガンで吹く。

組付け

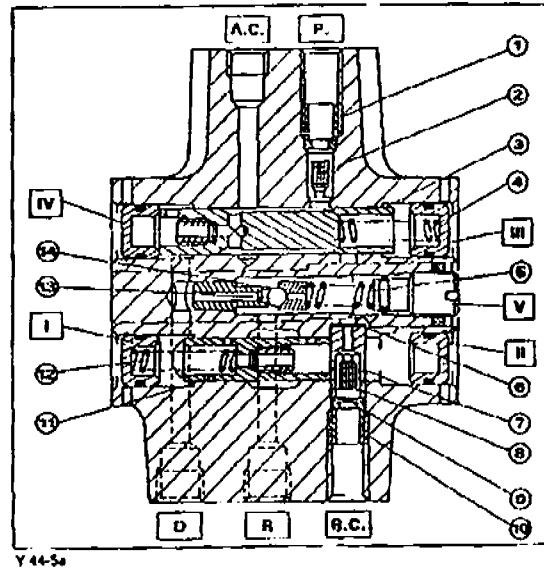
- 4個のプラグとコントロールスクリューに、新しいシールを取付ける。
- 新しいフィルター（複数）

* 組付ける前に、各部品にLHMオイルを塗布すること。

次の順序で組付ける。

オリフィスRC側から次の部品を組付ける：

- 細いノズル⑥をそのシートに取付ける。
- フィルター⑧をストッパー⑦に取付ける。
- 太いノズル⑨を入り口のテーパから外側へ向けて取付ける。
- スリーブフィルター⑩：
締め付けトルク 1.3 mdaN (kg·m)



オリフィスI側から、次の部品を組付ける：

- コントロールスライドバルブ⑪
- スプリング⑫
- プラグとスナップリングを入れ、プラグを奥まで押し込み、工具のアームで固定しておいて小さいドライバーを使って、スナップリングを溝に入れる。

プラグIIを取付ける。

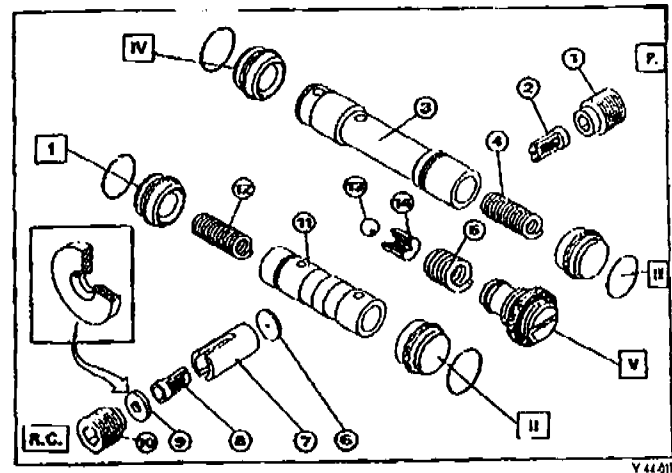
プラグIVを取付ける。

オリフィスIII側から次の部品を取付ける：

- ディストリビューションスライドバルブ③
- スプリング④
- プラグIII

オリフィスP側から次の部品を取付ける：

- フィルター②
- ねじ付きスリーブ①
締め付けトルク 1.3 mdaN (kg·m)



オリフィスVを通して次の部品を取付ける：

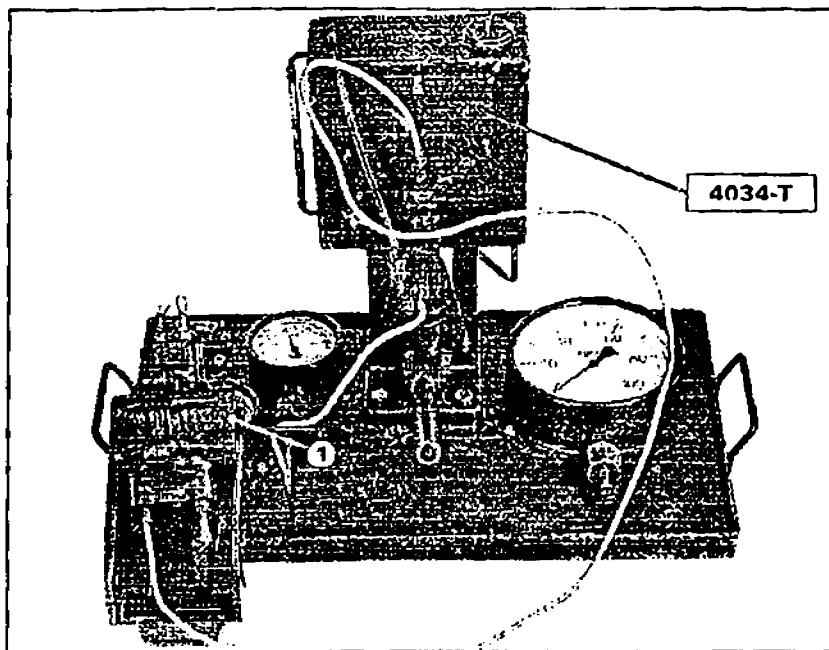
- ボール⑬をそのシートに
- スペーサー⑭
- スプリング⑮
- コントロールスクリューVにリングを付けて、スプリングを押し仮締めする。

リミット圧力の調整 (最高圧力)

ハイドロリックテストベンチ
(4034 T)を使用する。 図I
200barのゲージ付き

それぞれのパイプ接合部に
プラグとハイドロリック
シール(6.35mm φ)を取り付
ける 図I, II:

- AC (供給側)
- P (ハイポンプ)
- RC (リターン側)



SY 24 C2

92-259

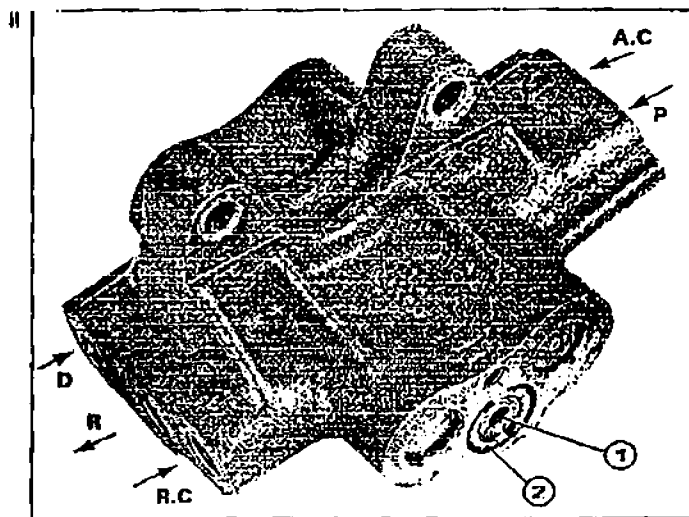
テストベンチ 4034-T のパイプをオリフィスD (ステアリング) 45mm φ に接続する。
オリフィスR (リザーバーへのリタン) のオイルが流出するのを受ける。

テストベンチの (バージの) コックを閉
じる。

ポンプを通常の動きで作動させる。

圧力が上がってきて安定したと
き、その圧力が規定値になるよ
うに、スクリュー①で調整する。
オイルはオリフィスR⇒から流出
する。

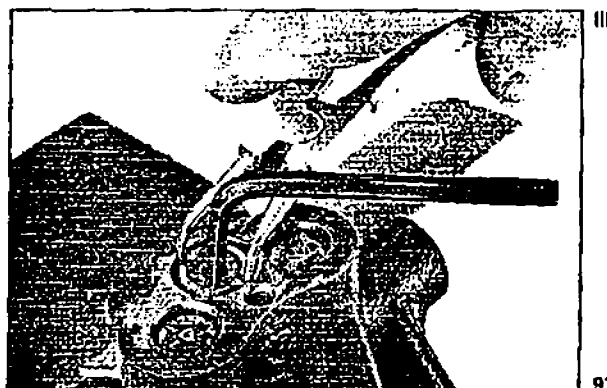
テストベンチの (バージの) コックをあ
ける。



92-251

調整スクリュー①の位置が変わらないよ
うに押さえておいて、ノーズプライヤ
ーでリングナット②を締め付ける。

締め付けトルク 1.5 mdaN (kg·m)



92-256

B X	=	125~130bar
X M	=	135~140bar
Xantia	=	135~140bar

オイル洩れを点検する：

- オリフィスRにプラグを取付ける。
- テストベンチの (パージの) コックを閉じる。
- フローアストリビューターに150barの圧力をかける。
- プラグと調整スクリューからのオイル洩れがないことを確認する。
- テストベンチの (パージの) コックを開ける。
- フローアストリビューターを取外す。

作成工具

A : 固定用アーム (ネジ付き)

1 個

B : 鋸歯を研いだもの

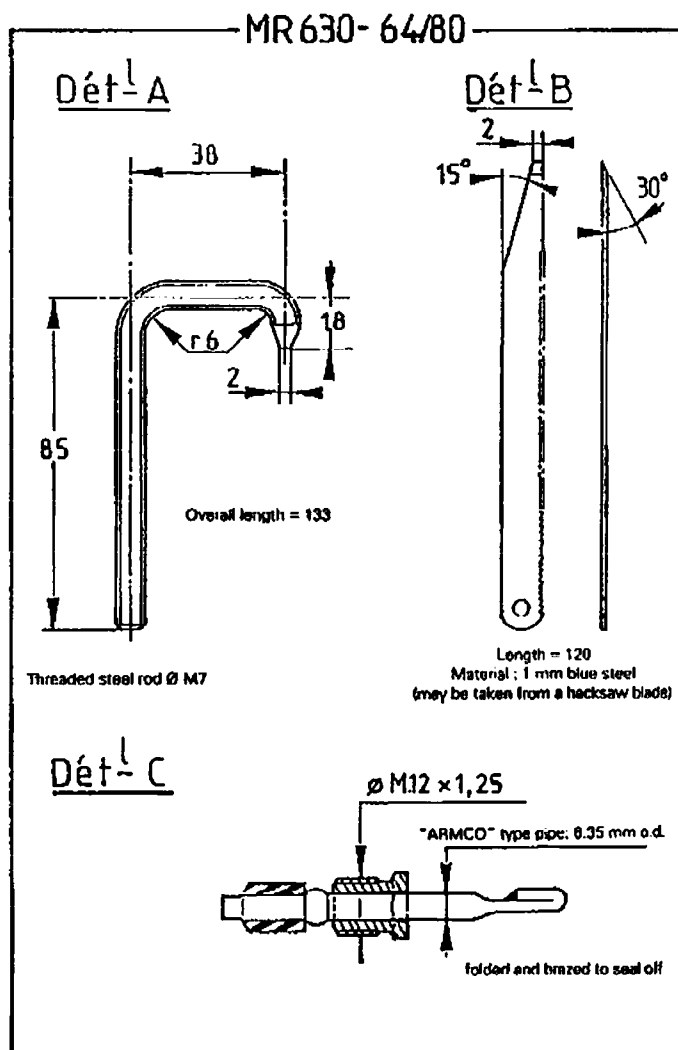
1 個

C : ハイドロリックシール













P/N 6061

パイプ孔めくら用 : 6.35mm φ

4 個



ハイドロニューマチック・スフェア	セダン			ワゴン
	BX19TRI ABS無	88M.Y.→ BX19GTI ←	BX19GTI 16V ABS有	BX19TRI
フロント	③	④	⑩	
リヤ	⑥	⑦	⑪	

ハイドロニューマチック・スフェア	400cc					
	①	②	③	④	⑤	⑥
部品番号	95 564 253	95 630 610	96 024 568	96 002 148	95 564 974	95 635 425
圧力 (kg/cm ²)	55	55	55	45	40	40
中心穴の直径 (mm)	 1.8	 1.85	 1.4	 1.4	 1.1	 1.1
部品番号 (輸出)	95 564 255	95 636 831	96 024 569	96 002 145	95 564 975	95 635 424
	400cc			500cc		
	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
部品番号	96 002 158	95 630 609	95 630 572	96 024 563	96 024 566	95 606 143
圧力 (kg/cm ²)	30	30	55	55	40	40
中心穴の直径 (mm)	 1.0	 1.1	 1.8	 1.65	 1.1	 1.25
部品番号 (輸出)	96 002 157	none	95 630 575	96 024 585	96 024 567	95 606 144

車種	シリンダ直径		アンチ・ロール・バー		
	フロント	リヤ	フロント直径	バンドの長さ	リヤの直径
セダン BX GTI BX GTI16S Sport 87M.Y.→			23	135	19
ワゴン16-19		37	23		18

・フロント・サスペンション構成部品：オーバフロ・リターン回路と通気 (図Ⅲ)

・シリンダ(3)が上昇するとバルブ(4)は閉じる。また、バルブ(1)は開き、空気がシリンダ(3)の本体へ入る。

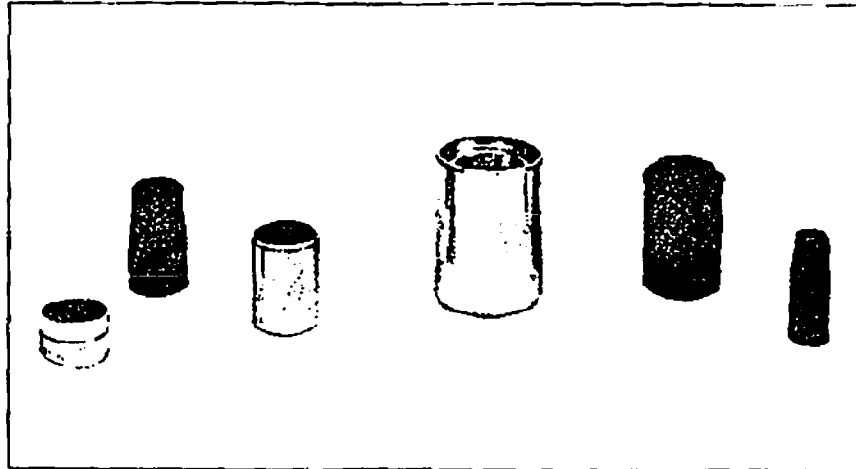
・シリンダ(3)が下降するとバルブ(1)は閉じる。また、バルブ(4)は開き、ガイド・ブッシュから漏れたオイルは、リザーバ・タンクへ戻される。

2. パワーステアリングコントロールバルブの修理方法

推奨工具

9036-T: ステアリングO/H工具セット

- ・ A: シール組付用コーン
- ・ B: シール組付用サポート
- ・ C: シール取外し用サポート
- ・ D: シール組付用シリンダー
- ・ E: バルブ組付用コーン
- ・ F: バルブ組付用ジグ

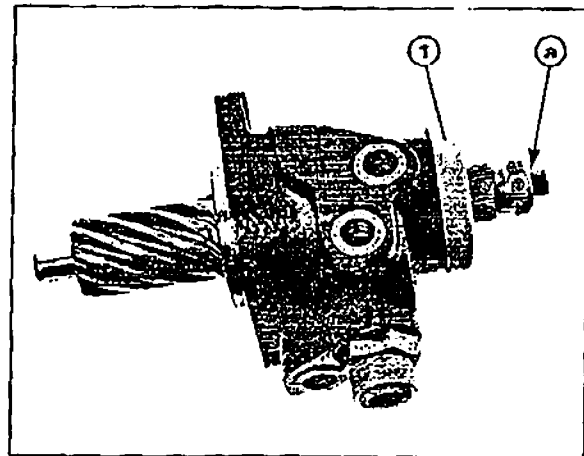


分解

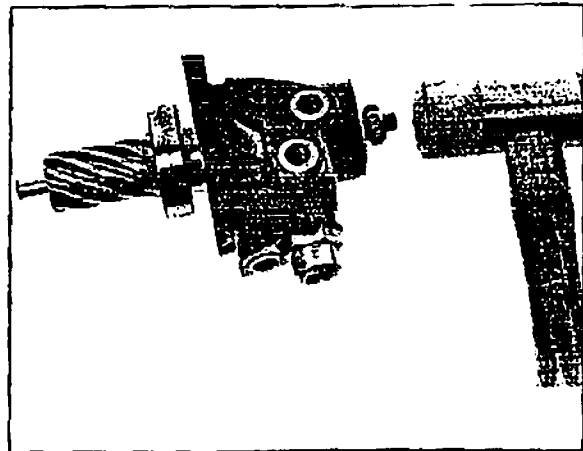
- ドライバーを使用してデフレクター①を外す。
(図 I)
- バルブシャフトの外端をプラスチックハンマーで強く叩いて、ローターを取外す。(図 II)
- ローターのシール接触面(b)を点検する。
(図 III)

下記の場合はコントロールバルブ本体を交換すること。
(図 I と III)

- 溝(b)のシール接触面に摩耗や傷がある時
- 溝(b)のシール接触面に錆がある時
- シャフトとローター間(a)からオイル洩れがある時

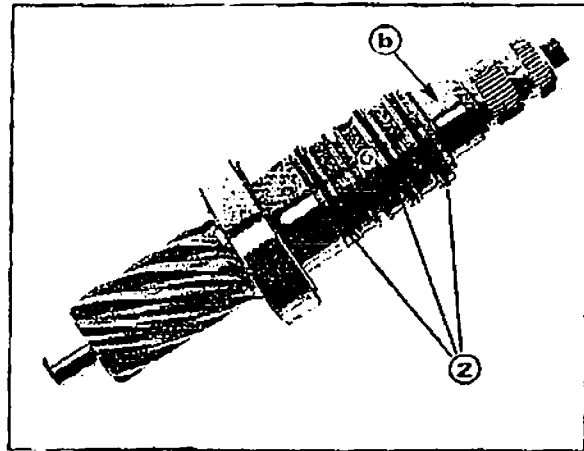


92-361



92-363

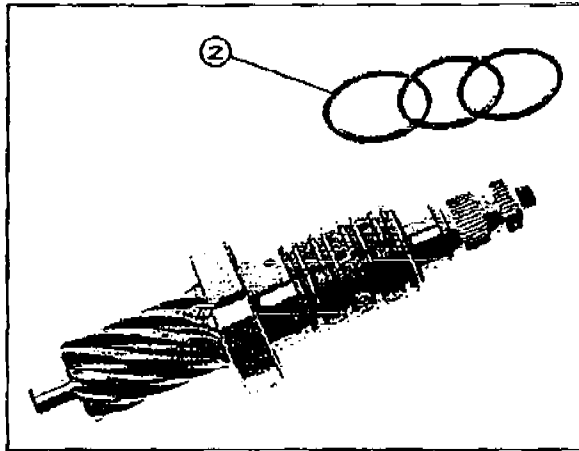
II



92-365

III

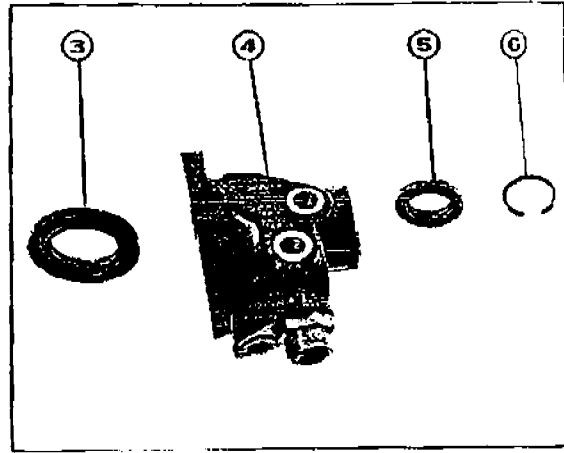
次の部品を取外す：



92-366

V

- ローターから (図IIIとV)
- ・ シールリング② 3個



92-364

IV

- バルブ本体から (図IV)
- ・ オイルシール③
- ・ サークリップ⑥
- ・ オイルシール⑤

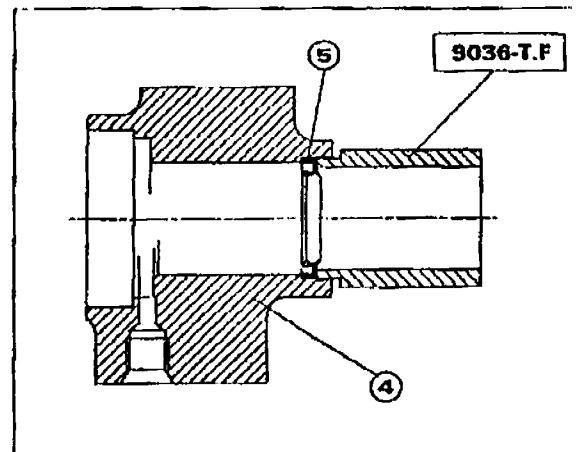
洗淨

- 分解した部品はホワイトガソリン等で洗淨し、エアーで吹く。

組付け

バルブ本体④に次の部品を組付ける： (図VI)

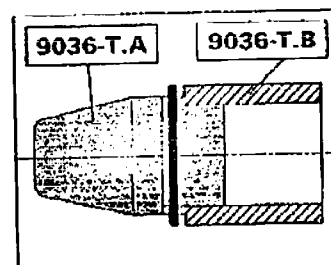
- オイルシール⑤、工具9036-T.Cを使用
- サークリップ⑥
- オイルシール面にオイルを薄く塗布する。



Y 44-021. Fig. 4

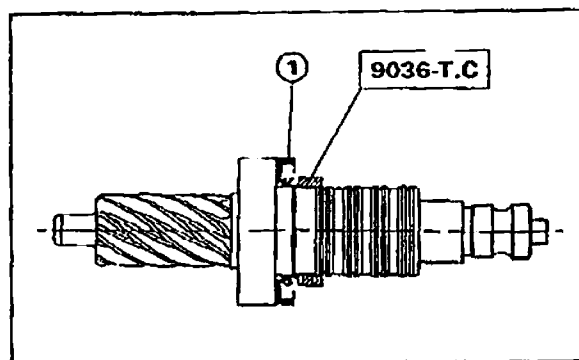
* 組付ける前に、シールリングと工具にLHMオイルを塗布すること。

テーパー工具9036-T.Aを使用して、シールリングを工具9036-T.Bと9036-T.Cに取付ける。(図1)



Y 44-025 - fig. 8

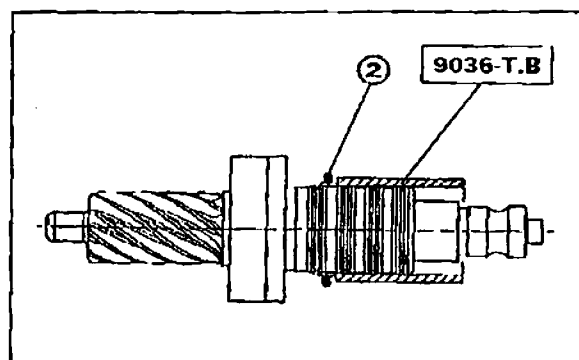
工具9036-T.Cを使用して、ローターにオイルシール①を取付ける。組付ける前にオイルシールにオイルを塗布しておくこと。
(図II)



Y 44-018 - fig. 1

II

工具9036-T.Bを使用して、バルブの溝にシールリング②を組付ける。
(図III)



Y 44-019 - fig. 2

III

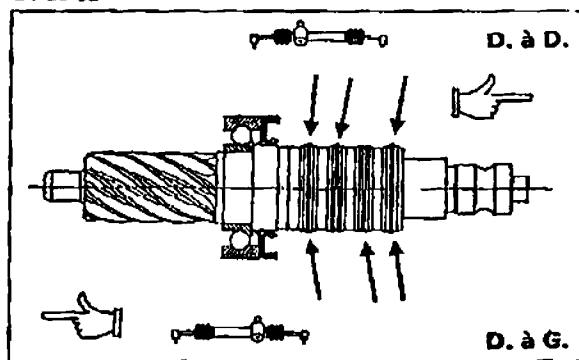
* 右ハンドルと左ハンドルとはシールリングの取付け溝の位置が異なるので、シールリングの位置を再確認すること。

リングシールのセンター (空き) シールリングを取り付けない場所

Da G.= 左ハンドル : 2番目の溝 (奥から)

Da D.= 右ハンドル : 3番目の溝 (奥から)

SY 20 C2



Y 44-024 - fig. 7

IV